毎月１５日発行　VOL.785　2024年9月１５日発行

全肢連情報

ZENSHIREN BULLETIN

皆様からニュースのご提供を
心からお待ちしております

全肢連公式ホームページでも全肢連情報をご覧になれます
https://www.zenshiren.or.jp

全肢連　検索

□編集・発行
一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会
〒170-0005 東京都豊島区南大塚３－４３－１１
福祉財団ビル５階
ＴＥＬ：０３－３９７１－３６６６
ＦＡＸ：０３－３９７１－６０７９
メール zenshiren@zenshiren.or.jp

第５７回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会
第５８回近畿肢体不自由児者福祉大会奈良大会

「住み慣れた地域で自分らしく生きる～重層的支援体制　誰一人取り残さない社会をめざして～」をテーマに、令和６年９月１４日（土）～１５日（日）奈良県奈良市にある「なら１００年会館」にて、ご来賓・関係者及び多くの会員の出席のもと、開催されました。

大会は、物故者ならびに能登半島地震被災者への黙祷からはじまりました。大会委員長でもある奈良県肢連 前田 妙子 会長は、冒頭「あおによし　奈良の都は咲く花の匂うがごとく今盛りなり」と万葉集の言葉を引用し、大会が奈良で開催されたことに、感謝の意を述べられました。そして、障害者を取り巻く様々な障壁をなくし、障害のある人もない人も誰もが豊かに暮らしていける社会の実現のために、大会に集った皆さま方と共に考え、課題を共有し、解決に向かって今後の活動につなげていきたいと話されました。

続いて全肢連 清水 誠一 会長は、大会準備に奔走された前田会長及び奈良県肢連スタッフをねぎらい、全国の地域父母の会会員をはじめとする関係者の更なるご健勝とご活躍を祈念申し上げました。

また、介護人材の不足や事業所運営の厳しさにより、生活介護事業所や短期入所施設は、縮小・閉鎖を余儀なくされ、特に重度障害者や医療的ケアを必要とする児者や家族にとって、施設が利用できない深刻な問題の解決に向けて、国へ要望していく旨を話されました。

その後、大会名誉会長 山下 真 奈良県知事の挨拶、仲川 げん 奈良市長から開催地歓迎

挨拶、武見 敬三 厚生労働大臣からの祝辞は、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課 富澤 元嘉 サービス係長、盛山 正仁 文部科学大臣からの祝辞は、文部科学省初等中等教育局 菅野 和彦 視学官（併：特別支援教育調査官）、加藤 鮎子 内閣府特命大臣（こども政策）からの祝辞は、こども家庭庁支援局 小野 雄大 障害児支援課長より代読いただきました。

次に、奈良県選出の 小林 茂樹 衆議院議員、堀井 巌 参議院議員、社会福祉法人日本肢体不自由児協会の 遠藤 浩 理事長、華厳宗大本山東大寺第２２４世別當社会福祉法人東大寺福祉事業団 橋村 公英 総裁より祝辞をいただきました。

全肢連顧問の 衛藤 晟一 参議院議員、野田 聖子 衆議院議員、岩本 剛人 参議院をはじめ多くの祝電もいただきました。

一部披露します。

「第５７回全肢連全国大会及び第５８回近畿肢体不自由児者福祉大会が、奈良県において盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

平素より清水会長はじめ貴連合会の皆様には大変お世話になっており厚く御礼申し上げます。又、石川県肢連の松田会長から被災地の現状報告があるとお聞きしていますが、能登地域をはじめ石川県の一日も早い復旧・復興のために微力ながら尽力することをお誓い申し上げます。

さて、８月末に来年度予算の概算要求が各省より提出され障害福祉サービスも２００６年に施行された障害者自立支援法を契機に義務的経費となり、こども家庭庁に移管された障害児予算を合わせると国費で２兆円を超え地方分も合わせると４兆円半ばになりました。これも全肢連をはじめ障害児者団体のご支援の賜物と感謝する次第です。

しかし、重症心身児者等まだまだ課題も山積されており皆様のご要望をお聞きしながら更なる充実を目指す所存ですのでよろしくお願い致します。

結びに２日間の大会が実り多きものになりますよう期待すると共に貴連合会のますますのご発展、ご参集の皆様のご健勝をお祈り申し上げます」

自由民主党障害児者問題調査会 会長 参議院議員 衛藤 晟一

「第５７回全国肢体不自由児父母の会連合会 全国大会ならびに第５８回 近畿肢体不自由児者福祉大会 奈良大会』ご開催にあたり、常日頃、肢体不自由・者の福祉の増進、社会的啓発及び自立による社会参加推進等に向けて、ご尽力されている皆さまに深く感謝を申し上げます。

これまでわが国では、例えば子育てや介護など、暮らしの中で様々な困難に遭っても、地域や家族での助け合いなど、様々な生活の場面において、支え合いの機能が存在しました。しかし、今は高齢化や人口減少が進み、介護人材の慢性的な不足、高齢化した親が障害者を介護する 8050 問題や介護サービスの地域間格差、さらには障害児・者への理解不足等、支え合い機能どころか、様々な課題が顕在化しています。

今回大会テーマとして、「住み慣れた地域自分らしく生きる～重層的支援体制 誰一人取り残さない社会をめざして～」を掲げられているように、参加の皆さまが、障がい児・者が安心安全に、そして心豊かに生活できる環境作りのための手がかり・ヒントを発見されることを期待しています。

先月、令和６年１月の能登半島地震の被災地である石川県輪島市へ行き、私が今取組んでいる情報通信施策に関する視察の他、グループホームや福祉避難所にも訪問する機会を得ました。ご存知のとおり、福祉避難所とは、災害時に高齢者・障害者・乳幼児といった特別な配慮が求められる人たちが、安全な状態で避難するための施設です。視察では、認知症や知的障害者、強度行動障害等、様々な特性を抱えている方々が、一緒に避難生活を送るなかでのさまざまな課題を目の当たりにしました。

そして視察を終え、「重層的支援体制」はもちろんのこと、避難所の基本的なあり方についても考えていく必要があるのではないかと考えています。いわゆる一般的な避難所があり、介護や障害など「支援を必要としている人」たちが、「使わせてもらう」というのではなく、最初から「支援を必要とする人」をまんなかに置き、他の人も使えるという形に変えていけばいいのではないか、それであれば誰一人取り残されることのなく、「支援を必要とする人」に必要な支援の手がしっかりと届くのではないかと思います。

最後になりますが、「全国肢体不自由児者父母の会連合会」のさらなるご発展と、本日ここにお集まりの皆さま方のご健勝を心から祈念いたしますとともに、今後とも、障害のある方もない方も分け隔てなく、お互いを尊重し、地域のなかで一緒に暮らすことができる社会、皆が活躍できる社会の実現に向け、私も一層の努力を重ねていくことをお約束し、挨拶の言葉といたします」

衆議院議員　野田 聖子

「第５７回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会並びに第５８回近畿肢体不自由児者福祉大会奈良大会」が、「住み慣れた地域で自分らしく生きる」～重層的支援体制　誰一人取り残さない社会をめざして～」をテーマに、なら１００年会館を会場に盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

本年４月、国は「第７期障害福祉計画及び第３期障害児福祉計画」を改訂し、障害当事者の方々始めご家族皆さまが生涯を通し安心・安全に暮らすことのできる社会となるように、私も、全肢連の役職員の皆さまと力を合わせ実現に向け国政で尽力してまいります。

令和７年度に向けた概算要求も取りまとめられました。全肢連様とは毎年１１月頃に行ってきた厚生労働省等への要望事項も障害福祉サービス等のニーズを的確に把握し予算案に反映できるよう共に汗をながす決意です。

改めて、本日の全国大会で会員皆さまの絆が深まり、子どもたちの未来が希望に満ちた社会となることを祈念いたしますとともに、奈良県肢連様はじめ、ご来会の会員皆さまのご健勝・ご活躍をお祈り申し上げご挨拶といたします」

参議院議員　岩本 剛人

開会式後には、石川県肢連 松田 郁夫 会長（全肢連副会長）より、今年１月１日に起きた「令和６年度能登半島地震被災地の現状」の特別報告がありました。

松田会長は、「令和６年１月１日午後４時１０分、能登を襲った最大震度７の地震は残酷

にも新年を寿ぐ家々を襲いました。過疎・高齢化が進む土地ですが、そこに暮らす人たちが一年で最も待ち遠しい時間でした。久し振りに集う家族。お節料理やお雑煮、お年玉など。この地震は大切な家族と家と街を奪いました。その時、何が起きたのか。被害を少しでも小さく、そして多くの命を守る術はあったのか。南海トラフの地震情報などが発表されるなど、いつ起こるのかわからない大地震に備える地域で、この話が少しでもお役に立てることを願います。能登は半島地形が災いし、半年以上が経過した今も復旧・復興がまだまだ進んでいません。仮設住宅への入居は目途がたってきたものの、今もなお不自由な避難生活を送る住民も数多くいます。能登の人たちが、また震災前の幸せな暮らしを送れるよう私たちも支援を続けていきたいと強く思っています」と話されました。

令和6年能登半島地震に際して
全国の父母の会の皆様からご支援をいただきありがとうございます。。
被災した会員家族みんなでこれからも復興に向けて歩んでまいります。
どうぞ宜しくお願い致します。

休憩をはさみ特別講演「誰一人取り残さない社会の実現をめざして～コミュニケーションテクノロジーで人類の孤独を解消する～」をテーマに、株式会社オリィ研究所所長の 吉藤オリィ氏に講演いただきました。

オリィ氏は、奈良県出身で小学５年～中学３年まで不登校を経験、高校時代に電動車椅子の新機構の発明に関わり、２００４年の高校生科学技術チャレンジで文部科学大臣賞、世界最大の科学コンテストＩＳＥＦにてＧｒａｎｄ Ａｗａｒｄ ３ｒｄを受賞。早稲田大学在学中、自身の不登校の体験をもとに孤独解消を目的とした分身ロボット「ＯｒｉＨｉｍｅ」を開発し、２０１２年に株式会社オリィ研究所を設立。ＯｒｉＨｉｍｅの他、意思伝達装置「ＯｒｉＨｉｍｅ ｅｙｅ＋ｓｗｉｔｃｈ」、車いすユーザーのためのバリアフリーマップアプリ「ＷｈｅｅＬｏｇ！」、寝たきりでも働けるカフェ「分身ロボットカフェ」等のコンセプト及びプロトタイプを開発。 自身の体験から「ベッドの上にいながら、会いたい人と会い、社会に参加できる未来の実現」を理念に、開発を進めている。 グッドデザイン大賞２０２１、コンピューター界のオスカーとも言われるＰｒｉｘ Ａｒｓ Ｅｌｅｃｔｒｏｎｉｃａ－ｇｏｌｄｅｎ ｎｉｃａ（２０２２）等を受賞。　趣味は折り紙。（オリィ研究所ＨＰより）

黒い白衣で、ＯｒｉＨｉｍｅと一緒に登壇し、分身ロボットでの可能性について、講演いただきました。

オリィ氏の詳しい情報は、写真のＱＲコードよりご参照ください。

１日目最後になる記念講演では、華厳宗大本山東大寺の 狭川 普文 長老に「奈良時代の医療福祉体制」について、お話いただきました。

狭川長老は、「奈良時代の医療福祉体制は、唐の律令を手本にしながらも、日本独自の『大宝律令』を制定し法治国家の樹立を目指した中で整えられていく。そのような国家においては、天皇は国土を治め、人を慈しむ責任を負うとされた。そうした統治観念は、医療行政や高齢者・障害者の保護という政策に反映されていった」と、話されました。

そして、奈良時代に発令された医疾令、当時の中国の医療体制、施薬や食料支給の対象者、中国から医療・福祉の情報を持ち帰った人物、福祉事業展開の根拠（福田の考え方など）、光明皇后の考え、現代における福祉と防災の問題など、時にはユーモアをたっぷり交えながら話してくださいました。

１８：００からの情報交換会は、場所をホテル日航奈良に移して行われました。

奈良県肢連 宿利 三知恵副会長の進行で、全肢連 河井 文 副会長の挨拶に続き、奈良県肢体不自由児協会の富和 清隆 理事長の乾杯の発声で、スタートしました。

記念パフォーマンスでは、「わたぼうしミニコンサート」もありました。

一年ぶりに顔を合わせる方々も多く、あっという間に時間が流れていきました。

２日目は、二つの分科会が開催されました。

第一分科会では、シンポジウムが行われ、「住み慣れた地域で自分らしく生きる」をテーマに、コーディネーターにバリアフリー研究所所長・元天理大学准教授・奈良県障がい者施策推進協議会会長の 八木 三郎 氏、シンポジストとして、社会福祉法人西宮市社会福祉協議会副理事長の 清水 明彦 氏、公益社団法人京都市身体障害児者父母の会連合会事務局長の 久門 誠 氏、社会福祉法人わたぼうしの会たんぽぽ生活支援センター相談支援専門員の内山 尚子 氏、奈良県肢体不自由児者父母の会連合会会長（障害者家族）の 前田 妙子 氏の４名で行われました。

第二分科会では、パネルディスカッションが行われ、「インクルーシブ防災～みんなで助かる防災を考えよう～」をテーマのもの、個別避難計画の必要性と限界、福祉避難所の在り方を議題に、コーディネーターに兵庫県立大学大学院減災復興政策研究所准教授 松川 杏寧 氏、パネリストに石川県肢体不自由児者父母の会連合会会長の 松田 郁夫 氏、一般社団法人福祉防災コミュニティ協会福祉防災上級コーチの 温井 恵美子 氏、尚絅大学短期大学部総合生活学科講師の 吉村 千恵 氏の３名で行われました。

閉会式では、奈良県肢連 田口 美智子 副会長より、大会決議文が読み上げられ、満場の拍手にて採択されました。

一、「一人一人が住み慣れた地域で自分らしく生きられる社会」すなわち、すべての国民が障害の有無にかかわらず、お互いに人格と個性を尊重し合い、理解し合いながらともに生きていける社会を実現すること
一、障害者支援に携る人材不足の解消に向けて、早急なる処遇改善と地位向上、人材育成を実現すること
一、労障介護など障害者とその家族を取り巻く複雑化した問題解決のために、重層的支援体制により横断的・包括的に支援すること
一、医療的ケアの必要な人や重複障害のある人に対応できるグループホーム設置を進捗させる体制を国の制度で整えること
一、障害児者の自立と社会参加の促進のために、情報通信技術（ＩＣＴ）の利用を拡大すること
一、肢体不自由児者への移動支援は、外出の範囲や目的（通学・通勤）、利用地域に関わりなく、国の介護給付とすること
一、肢体不自由児者の社会参加を促進するため、公共機関のバリアフリートイレに、大人のおむつ交換可能なベッドの設置を法令で義務化すること
一、すべての市町村における個別避難計画作成の促進と、火災時における障害特性に合った支援や福祉避難所および仮設住宅の充実を図ること

全肢連では、この決議文を国に届けてまいります。

こうして、２日間の日程を無事盛会裏に終えることができました。前田会長をはじめ奈良県肢連の皆さまありがとうございました。
来年、９月２７日～２８日に札幌で皆様に再会できますことを楽しみにしています。

第３３回全道肢体不自由児者福祉大会釧路大会

令和６年９月７日（土）～８日（日）に、北海道釧路市の釧路市生涯学習センター「まなぼっと幣舞」にて、ご来賓・関係者及び多くの会員の出席のもと、開催されました。
障害福祉サービス事業所における人材確保と運営面での要因を明らかにするとともに、すべての障害児者が地域で暮らすための格差をなくすため、「安心・安全な地域社会を紡ぐために」～地域格差をなくして～をテーマに、課題解決に向けた取り組みの一環として開催されました。
基調講演では、「第１期ほっかいどう障がい福祉プラン」について、北海道保健福祉部障がい者保健福祉課長の 徳田 泰則 氏にご講演いただきました。
分科会は、重症心身障害児者・医療的ケア必要とする方々の「災害時の対応、障害福祉サ

ービスの給付・地域医療の現状と課題」等について行われました。災害時の対応では、全肢連 松田 郁夫 副会長（石川県肢連会長）が、全道からの多くの支援に感謝の意を伝え、その御礼も含め能登半島地震の体験を交えながら災害時の対応等について話をされました。

２日目の記念講演では、「在宅重度障害児者の短期入所の現状、障害児からの成人期の移行医療」について、社会福祉法人北海道療育園園長の 林 時仲 氏よりご講演いただきました。

シーティング研修会

障害児・者の二次障害防止と機能性発揮のための標記研修会を、講師にシーティングスペシャリストの山崎康広氏をお招きして、令和６年１０月１９日（土）～２０日（日）に、沖縄県南城市のユインチホテル南城で開催します。

姿勢を改善して保つことで、様々な効果と可能性が広がる世界標準のシーティング技術についての研修会です。初心者向けシーティング講義、シーティング実演・体験会を予定しています。参加費は１，０００円。申し込みは沖縄県肢体不自由児者父母の会連合会（ＴＥＬ０９８－８３６－２３５２）まで（締め切り１０月８日）。

事務局より

１１月に予定しております東京（11/8、9）・三重（11/2、3）・和歌山（11/23、24）・長崎（11/30、12/1）で開催の「地域指導者育成セミナー」の申し込み受付を開始いたしました。

皆さまのご参加をお待ちしております。

〇第４１回東北地区　全国肢体不自由者父母の会連合会宮城大会
　令和６年9月２８日（土）～２９日（日）秋保リゾートホテルクレセント（宮城県仙台市）
〇全国重症心身障害児（者）を守る会創立６０周年記念大会
　令和６年９月２８日（土）～２９日（日）グランドニッコー東京 台場（東京都港区）
〇第４０回九州ブロック肢体不自由児者父母の会福岡大会
　令和６年１０月５日（土）～６日（日）
　オリエンタルホテル福岡博多ステーション（福岡県福岡市）
〇全国特別支援教育推進連盟第２回理事会
　令和６年１０月８日（火）　福祉財団ビル７階会議室
〇令和６年「全社協福祉懇談会」～ともに生きる豊かな地域社会の実現をめざして～
　令和６年１０月８日（火）　全社協・灘尾ホール
〇シーティング研修会
　令和６年１０月１９日（土）～２０日（日）　ユインチホテル南城（沖縄県南城市）
〇第５４回中国四国肢体不自由者父母の会連合会鳥取大会
　令和６年１０月２６日（土）　とりぎん文化会館（鳥取県鳥取市）